



国史跡 万富東大寺瓦窯跡 想像図

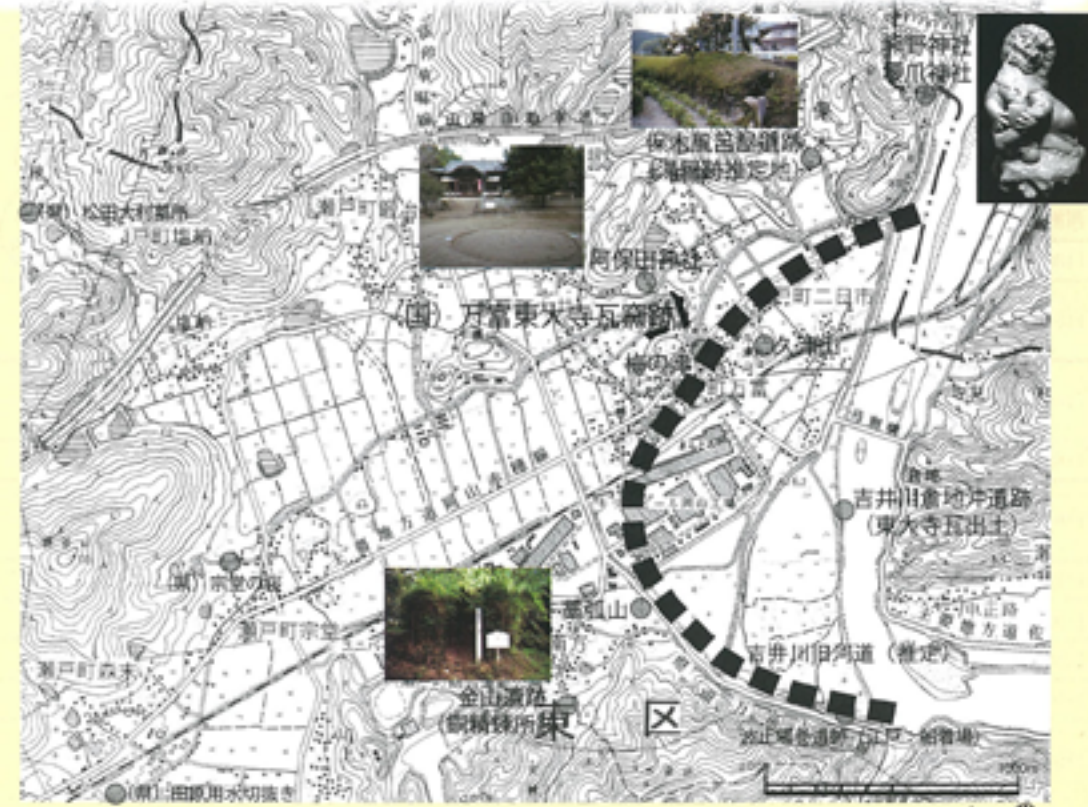
この地で鎌倉時代に奈良東大寺の再建瓦が生産されました。窯が30基あり、作業のために多くの建物が建てられ、周囲は竹垣で囲まれていたと伝承されています。



大量の粘土を採取したために、大きな採掘となり、江戸時代には用水池として利用されていました。現在は、住宅地になっています。

粘土とこねあげ、工場で瓦の形を作ります。乾燥後、窯場で焼く。生産を管理する管理所がありました。

生産された瓦は、西に積み、川筋の近く吉井川の中ほどまで運び、積み替えていました。焼き上げに使う薪や出荷される瓦が河原に集積されていました。



万富東大寺瓦窯跡と周辺遺跡

【交通】JR山陽本線「万富駅」から北東へ約400m (徒歩約10分)

国指定史跡

まんとみとうだいじかわらがまあと
万富東大寺瓦窯跡



東大寺軒丸瓦 (鎌倉時代初頭：約800年前)

この軒丸瓦は、万富東大寺瓦窯跡でつくられた鎌倉期の東大寺再建のための瓦です。直径は約20cmもあります。中央の円環内に「大日如来」を示す梵字を置き、その外側に「東大寺大仏殿」の文字が配置されています。



岡山市教育委員会

遺跡の概要

万富東大寺瓦窯跡（国史跡）は、JR万富駅の北方約400mにある細長い丘陵にあります。

昔から「東大寺」の刻印のある瓦や窯壁が発見されていたことから、鎌倉時代初頭（約800年前）に東大寺再建瓦を製造した窯跡として、昭和二年（1927）に国の指定史跡となりました。

奈良時代（約1250年前）に創建された東大寺は、治承四年（1180）十二月、「源平の戦い」で焼失しました。翌年、俊乗房重源が東大寺造営の勸進職（東大寺復興の責任者）に任命され、朝廷や鎌倉幕府の支援を得て、大仏の修理、大仏殿の再建、大仏殿の中に安置される諸仏像の造像の順序で復興が進められました。大仏殿などの建物の再建には、東大寺造営料国の周防国から木材が切り出され、同じく造営料国の備前国から瓦が製造されて、東大寺に運び込まれています。

万富東大寺瓦窯跡では、14基の瓦窯、管理棟と思われる礎石建物、工房や暗渠排水施設などが確認されています。瓦窯は、火力アップのために火の通りを良くする溝（ロストル）を持つ半地下式平窯と呼ばれるもので、長さ約5m、幅約1.5～2mあります。備前国では、焼き物の生産が盛んであり、この地が、吉井川の水運を利用して材料や製品の運搬に適していたため、東大寺瓦の生産地に選ばれたものと考えられています。製造された瓦は、大仏殿のみではなく中門や回廊、南大門、鐘楼にも使用されたと考えられており、約30～40万枚の瓦が製造された大規模な瓦製造工場でありました。



史跡標柱と看板



東大寺大仏殿



俊乗房重源座像
（複製：岡山県立博物館蔵）

俊乗房重源（1121～1206）
「源平の戦い」によって焼失した東大寺の復興を行うとともに、以後の東大寺の運営基盤をつくりあげた勸進職。



東大寺復興を進めるなかで、各地で仏教の布教に努め、荘園の開発や交通整備に伴う土木事業などを行って戦災復興にも貢献しました。



瓦窯の実測図
（福多庵寺の瓦窯）



瓦窯



礎石建物



暗渠排水施設

関連する遺跡

・阿保田神社

万富東大寺瓦窯跡を見下ろす丘の上に鎮座。東大寺瓦製造時に、東大寺の守神である手向山八幡宮を勧請したといわれています。境内で東大寺瓦が出土しています。

・金山遺跡

銅貨を集めてできた塚状盛土があります。付近から鎌倉時代初頭の銅鏡が出土。金山には鹿坑となった探掘坑があります。大仏修造の銅が探掘されたと考えられています。

・保木風呂屋遺跡

この地は「風呂屋」という地名で、径1m程の井戸が組み込まれた石垣が築かれています。重源がつくった湯屋跡と推測されています。

・吉井川倉地沖遺跡

川底から多数の東大寺瓦が採集。瓦の運搬中に落水したものとされていますが、水神に奉納されたものという説もあります。

・蓮爪神社

吉井川に面して、熊野神社（赤磐市）と並列して鎮座。宋様式の石製狛犬が一体ずつありました。この狛犬は、東大寺瓦輸送の安全を祈念して奉納されたと考えられています。

ほかに、浄土寺（岡山市湯迫）の「大湯屋跡」、吉備津彦神社（岡山市一宮）の境内にあった「吉備津宮常行堂」、総社市黒尾の「鬼の籠」などがあります。



史跡指定範囲と遺構配置図

東大寺再建関係略年表

西暦	和暦	事項
1180	治承四	源平の争乱で東大寺が焼ける。以仁王が平氏追討の令旨を発する。源頼朝が挙兵。
1181	治承五 養和元	重源、造東大寺勸進職に任命される。大仏の螺髪を鋳始める。平清盛が死去（64歳）。
1185	元暦二 文治元	「壇ノ浦の戦い」で平氏が滅びる。東大寺大仏開眼供養。
1186	文治二	周防国が東大寺造営料国となる。翌年より、榎から木材を切り出す。
1187	文治三	源頼朝、東大寺復興の木材運搬を妨害しないよう周防国の地頭に命ずる。この頃、周防阿弥陀寺創建。重源、備前国荒野開発の妨害停止を奏上。
1190	建久元	東大寺大仏殿上棟。
1192	建久三	後白河法皇が死去。播磨国大部任を東大寺領として復興し、播磨浄土寺を建てる。
1193	建久四	播磨国・備前国が東大寺造営料国となる。
1195	建久六	大仏殿・中門などが完成。東大寺供養が行われる。重源、大和尚号を得る。
1196	建久七	魚住泊・大和田泊の改修計画が認められ、国衙に協力が命じられる。東大寺大仏殿の石の騎士像、四天王像、中門の石獅子などがつくられる。
1199	正治元	源頼朝が死去。
1203	建仁三	東大寺総供養。『備前国友進未達納所惣散用帳』に万富産の瓦を示す「吉岡御瓦」の語句あり。重源、『南無阿弥陀仏作善集』作成。翌年、東大寺東塔の造立を開始。
1206	建永元	重源、東大寺浄土堂で死去（86歳）。

